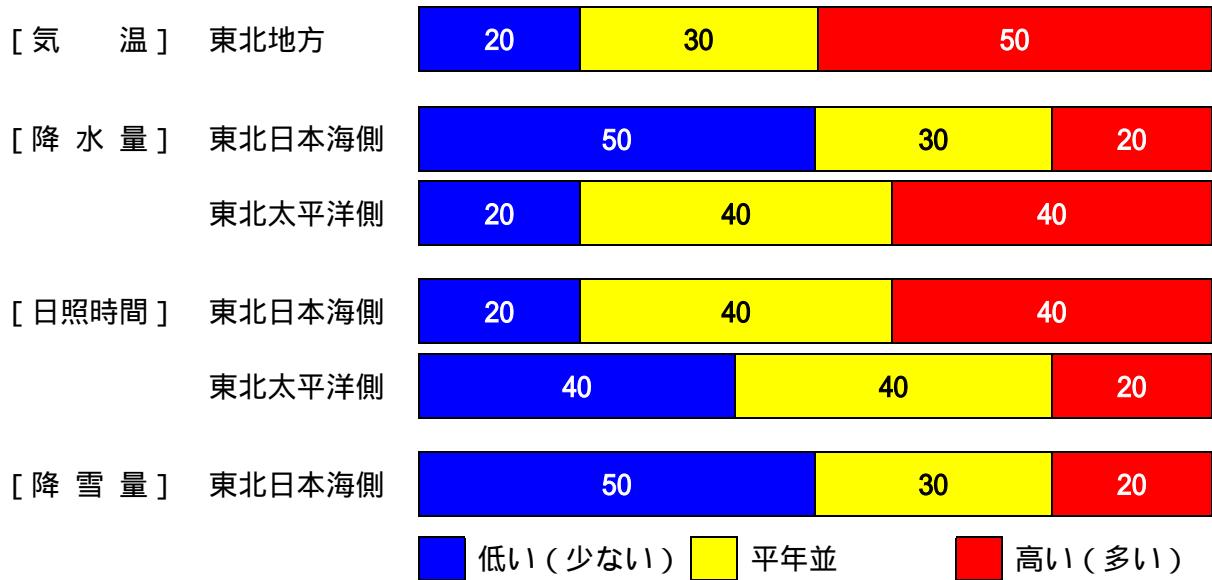


東北地方の1か月予報解説資料(予報期間:1月26日~2月25日)

平成14年1月25日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「低い」の可能性は20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[降雪量]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(最も高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

なお、期間の前半は平年より気温の高い日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約6日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… (1月26日～2月1日) 27日は発達した低気圧の影響で天気が崩れるでしょう。その後は冬型の気圧配置となるため、東北日本海側では雪の降る所が多く、東北太平洋側では概ね晴れる見込みです。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約5日

2週目…………… (2月2日～2月8日) 天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は高いでしょう。

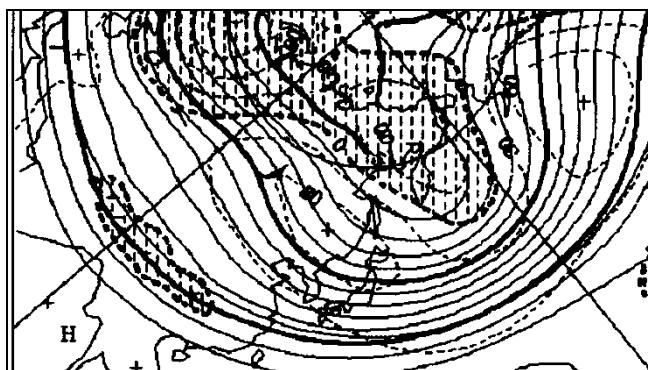
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約5日

3～4週目…………… (2月9日～2月22日) 天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約3日、東北太平洋側約9日

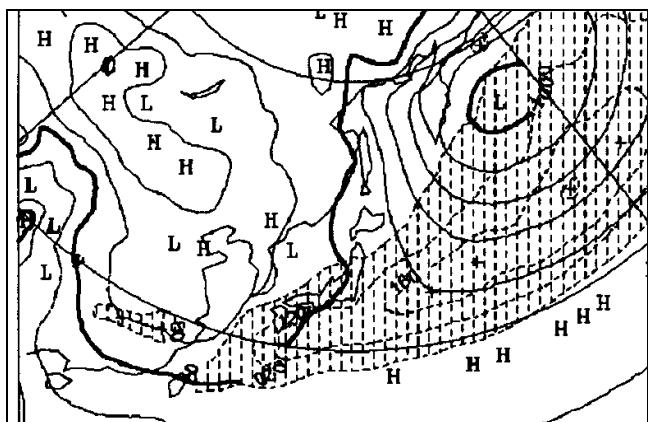
予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



・500hPa高度・偏差

月平均で見ると、アラスカの南とバイカル湖から北日本に正偏差の中心があり、極東では高緯度を除いて広く正偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期変化で、強い寒気は南下しにくい。

週別（図略）でも、月平均と同様。各週共に日本付近は正偏差に覆われ、特に2週目は日本付近が正偏差の中心となる。

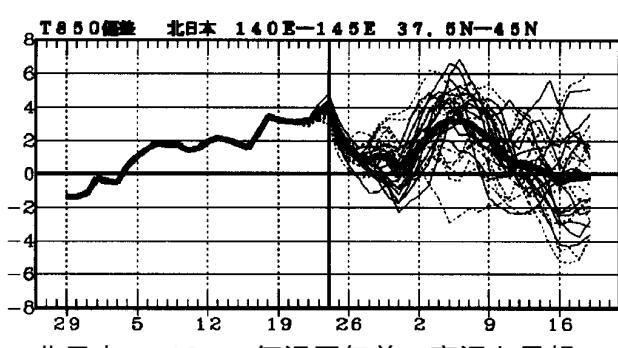


・地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸に高気圧、カムチャッカ半島の東には低気圧があり、日本付近は冬型の気圧配置となっている。しかし、等圧線の間隔は広く、冬型の気圧配置は弱い。

まとまった降水域は、日本の南岸沿いから東海上に延びる。

週別（図略）でも、月平均と同様の気圧配置となっているが、特に2週目は日本付近高気圧に覆われる。



・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1週目は平年並～高めで、2週目に平年を大きく上回る。その後下降して3～4週目は概ね平年並で推移する。

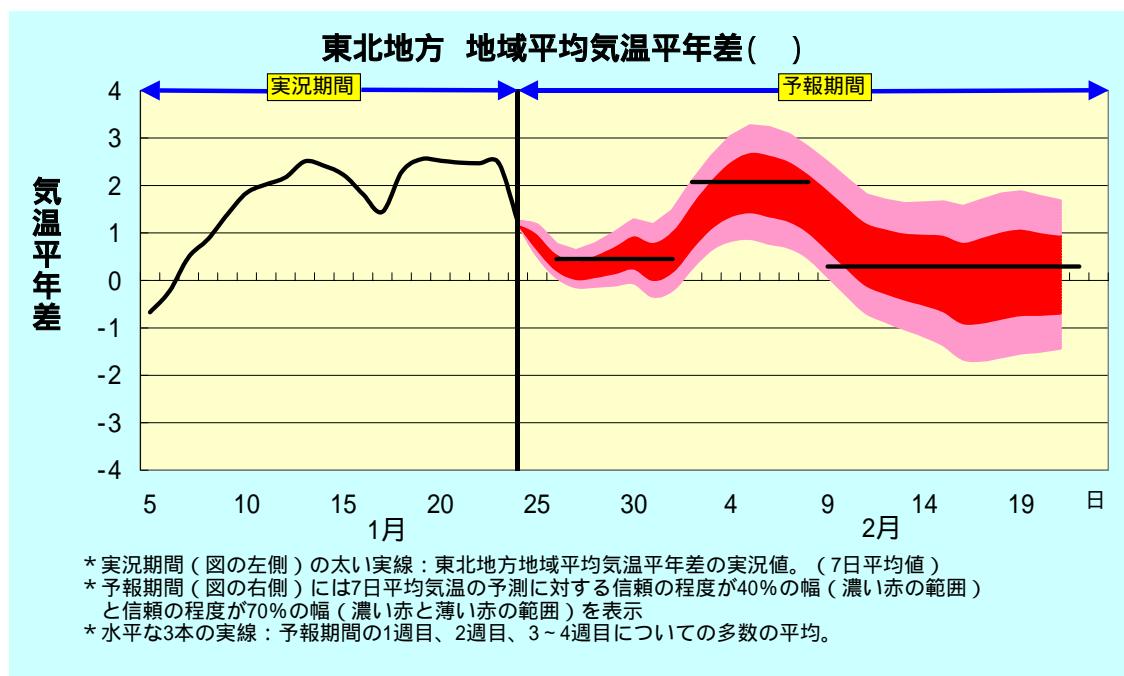
2週目に低温となるメンバーも1つあるが、3週目位までは比較的バラツキは少ない。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目「平年並」、2週目「高い」、3~4週目「平年並」を予測している。

予報は、他の予想資料から1週目を「高い」に修正する。2週目以降は予測どおり。

なお、予報の信頼度は大きい。

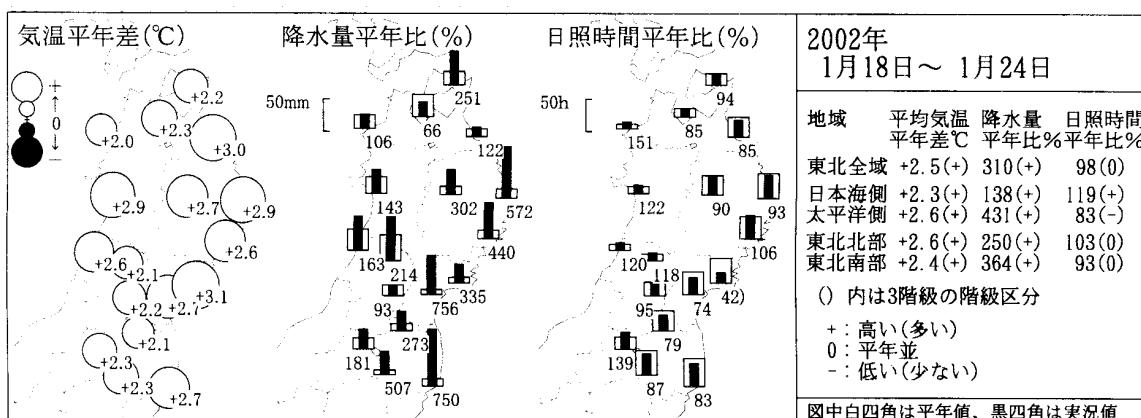


4. 最近1週間（1月18日～1月24日）の天候の経過

この期間、19～20日にかけては移動性高気圧に覆われ、晴れるところが多かった。21～22日にかけては低気圧が発達しながら日本付近を通過したため、東北太平洋側を中心に記録的な大雨や暴風となり、大荒れの天気となった。その後は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪となるところが多く、東北太平洋側では曇りや晴れとなった。

21日の各地の日降水量は、宮古で72.5mm、大船渡で52.5mm、仙台で60.5mm（1月として第2位）小名浜で88.0mm（1月として第1位）などだった。

平均気温は、東北地方で平年差+2.5と高かった。降水量は、東北地方で平年比310%と多かった。日照時間は、東北日本海側で平年比119%と多く、東北太平洋側で平年比83%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)